

欧州景気概況(2023年6月)

2023年6月2日

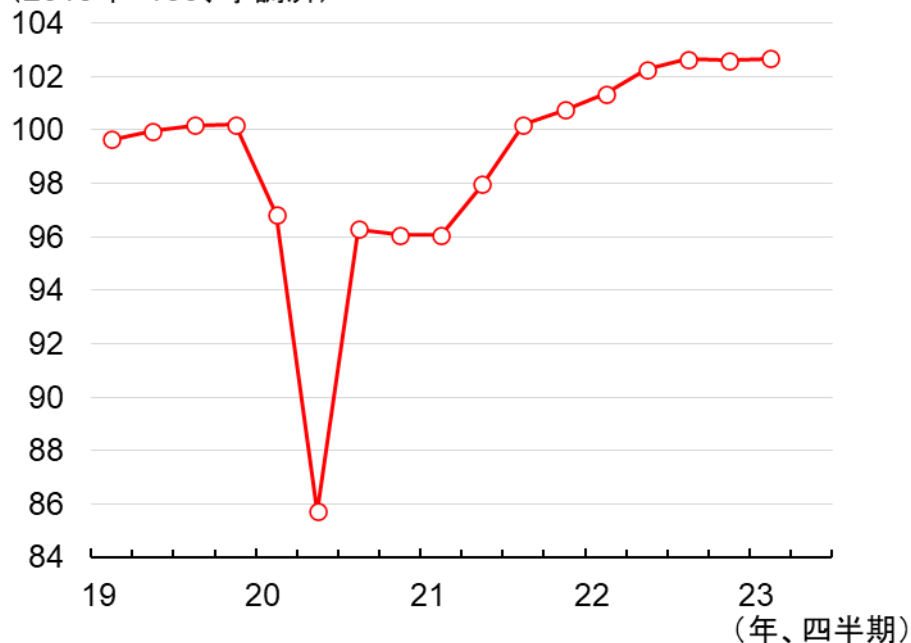
調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

ユーロ圏の1-3月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.1%とほぼ横ばい。一方で、景気の方角を示す景況感指数は、最新5月が96.5と前月(99.0)から下振れした。企業の景況感が、製造業・サービス業を問わず悪化した。

実質GDP

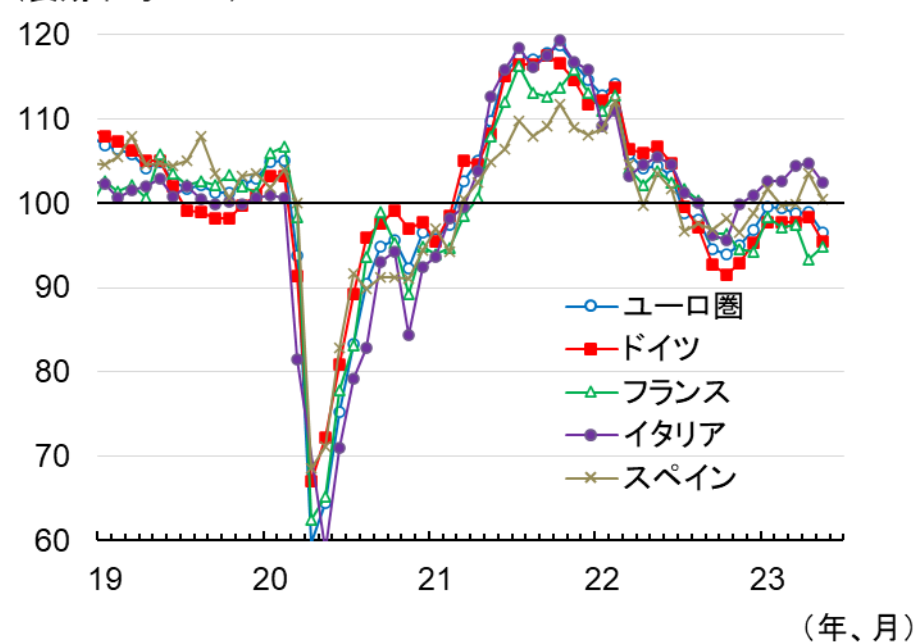
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

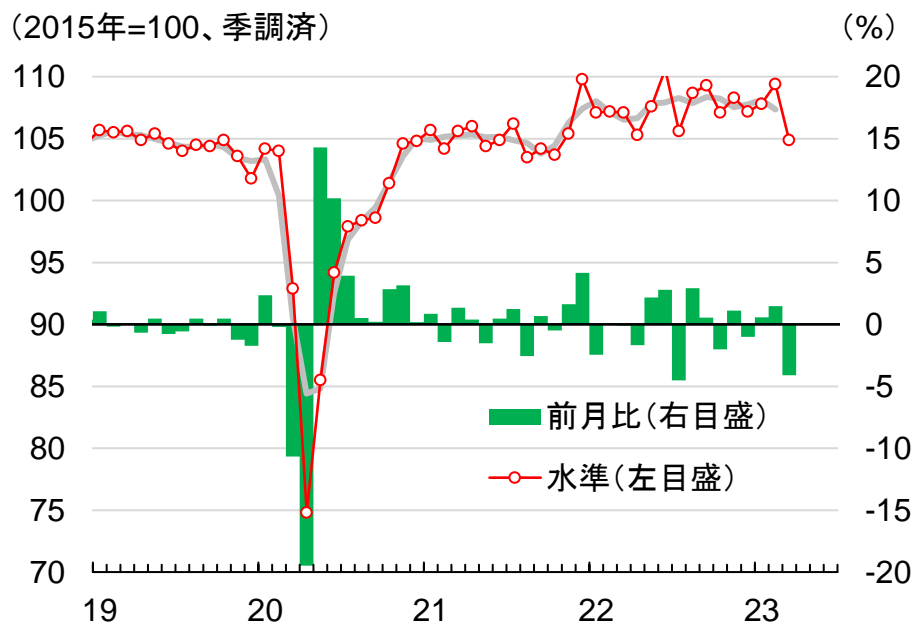


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は足踏み

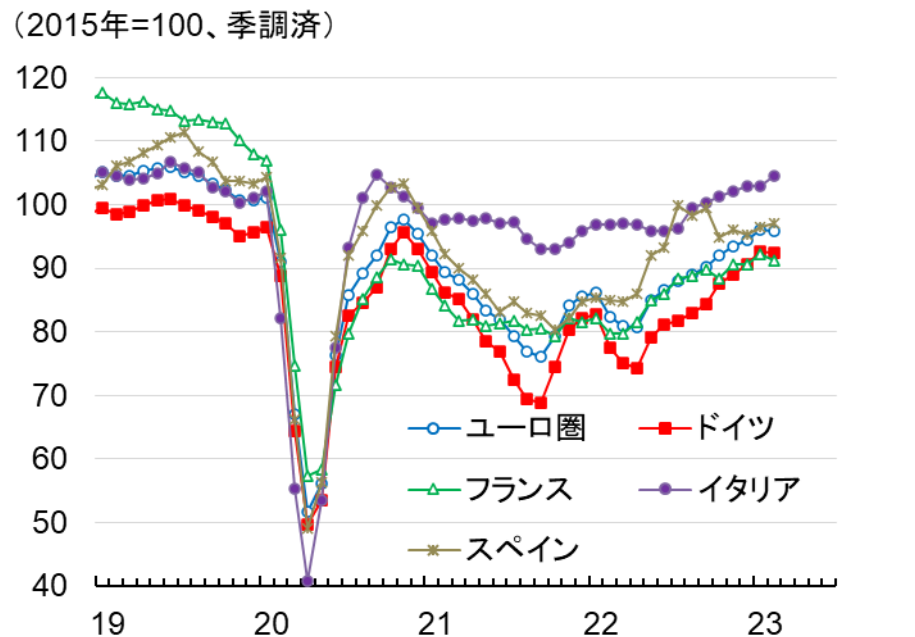
ユーロ圏の3月の鉱工業生産は前月比▲4.1%と下振れしたが、均した動きは横ばいとなった。資本財の生産が急減（同▲15.4%）したこと、変動の激しいアイルランドの生産が化学品を中心に急減（同▲26.3%）したことの影響を受けた。また自動車の生産は、ドイツとフランスは頭打ちとなった反面で、イタリアとスペインで回復が続いた。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)

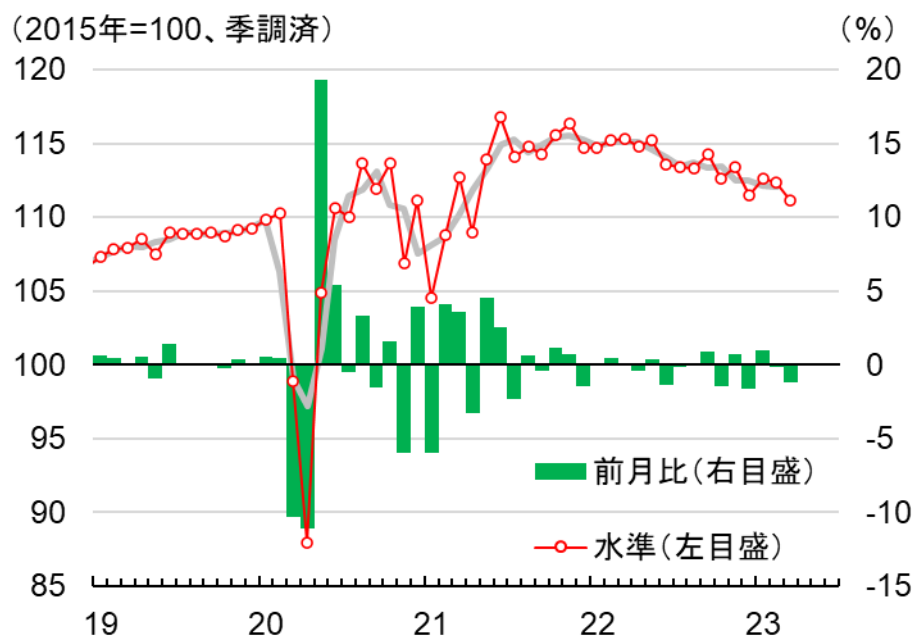


(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は悪化

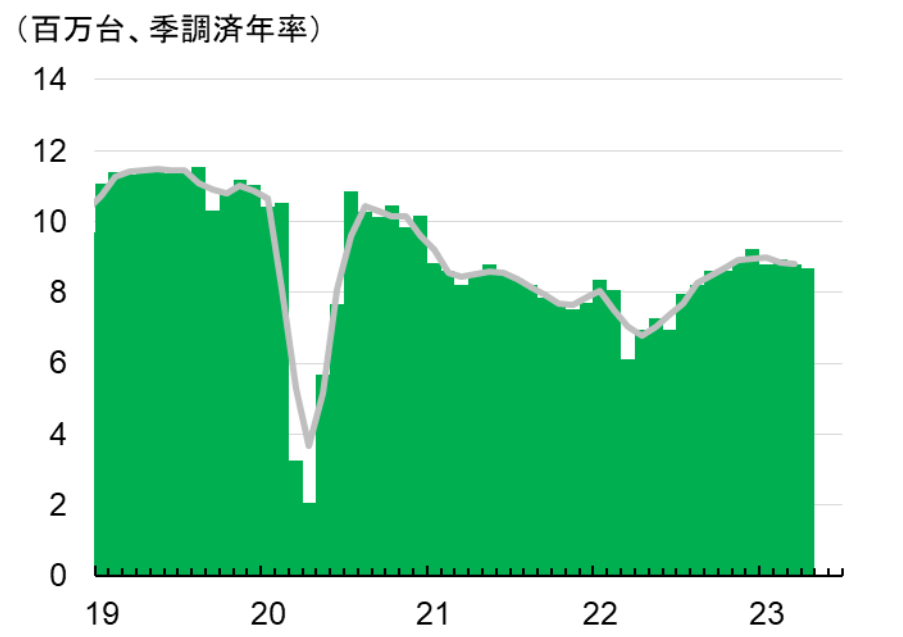
ユーロ圏の3月の小売数量は前月比▲1.2%と2ヶ月連続で減少し、均した動きは下向き。一方で、翌4月の新車販売台数は前月比▲1.2%の年率868万台と2ヶ月連続で減少し、均した動きも下向き。ドイツで電動車の購入補助金が縮小されたことや金利高が進んだことなどで、市場の回復が一服した模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

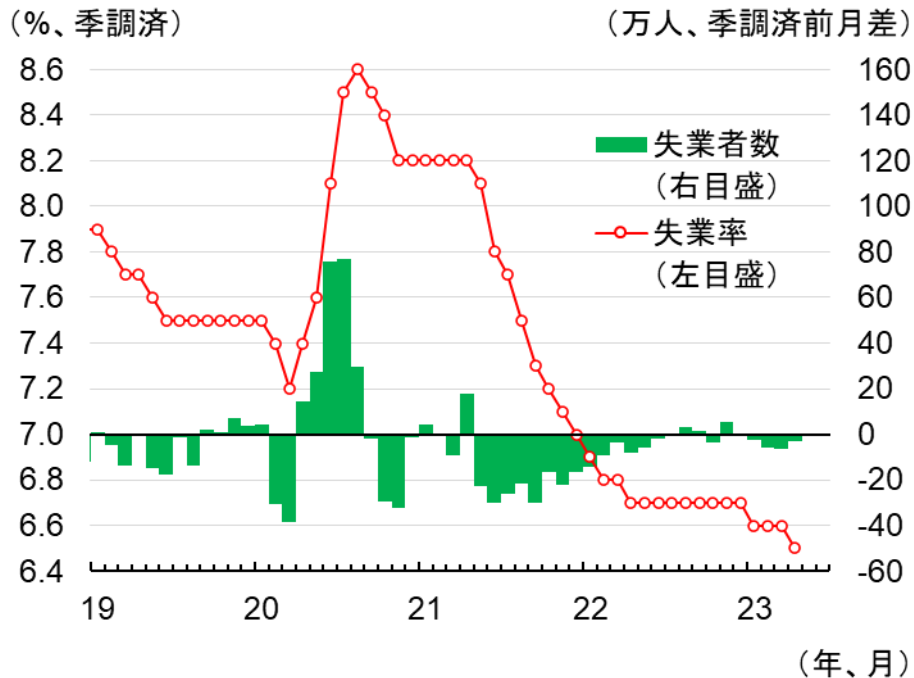


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善

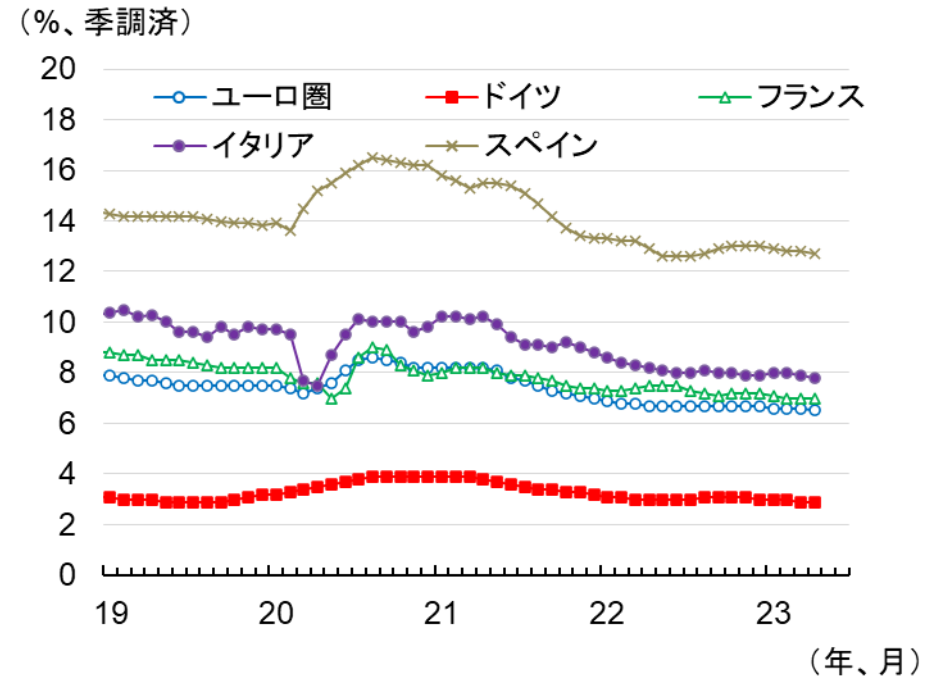
ユーロ圏の4月の失業率は6.5%と4ヶ月ぶりに低下した。一方で、失業者数は前月比3.2万人減と改善ピッチが鈍化したものの、雇用は改善が進んだ。主要国別に失業率を見ると、各国ともわずかな低下か横ばいにとどまっている。

雇用統計



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

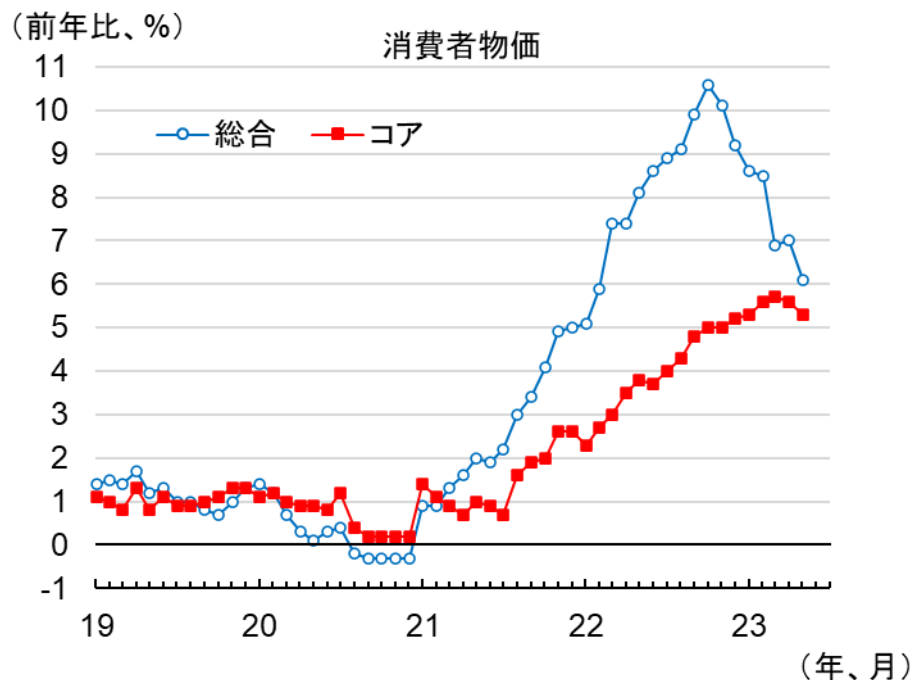


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは鈍化

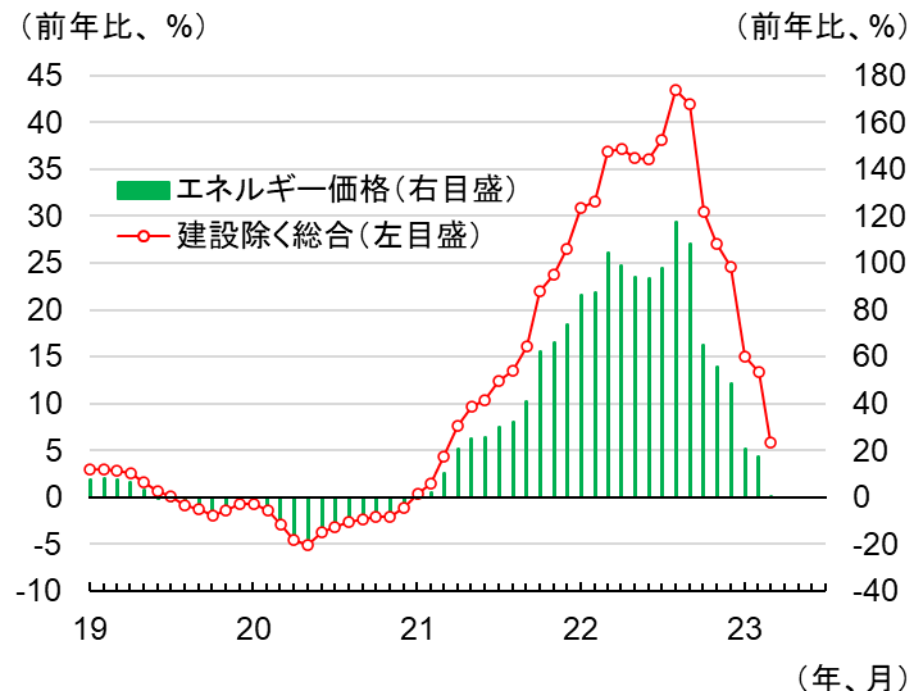
ユーロ圏の4月の消費者物価(速報値)は総合ベースで前年比+6.1%と、前月(同+7.0%)から伸びが鈍化。変動が激しい項目を除いたコアベースでも同+5.3%と、2ヶ月連続で伸びが鈍化した。一方、生産者物価(建設除く総合)は3月時点で前年比+5.9%と、7ヶ月連続で上昇が減速した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

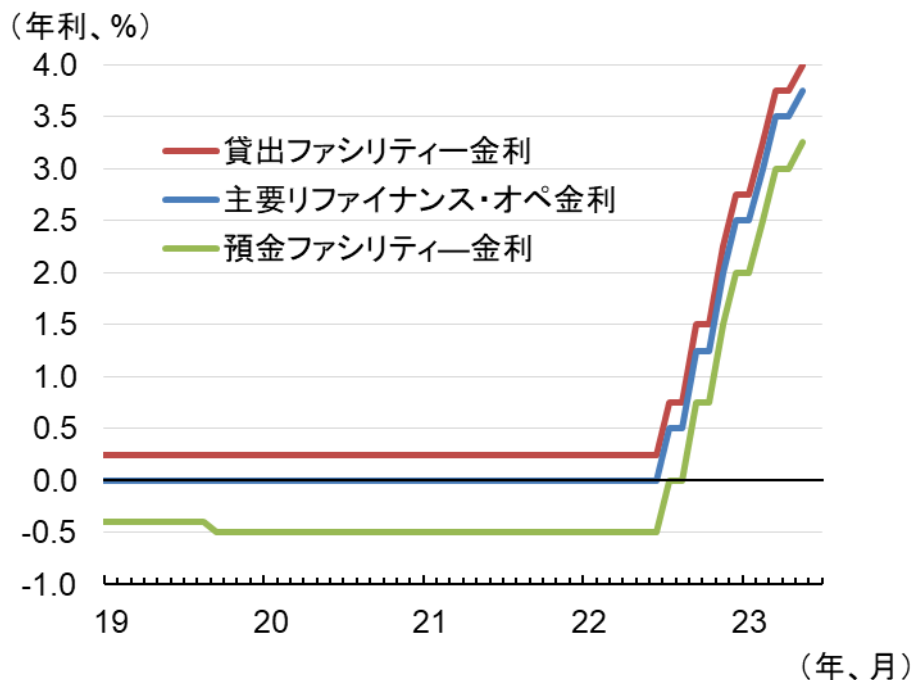


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは5月理事会で追加利上げを実施

欧州中央銀行(ECB)は5月4日に定例の政策理事会を開催、政策金利をそれぞれ0.25%引き上げた。またECBは、資産購入プログラムで買い入れてきた金融資産の再投資を3月から6月まで月額150億ユーロずつ削減するが、その後は再投資そのものを停止すると発表した。次回理事会は6月15日を予定。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

5月理事会での決定内容の概要

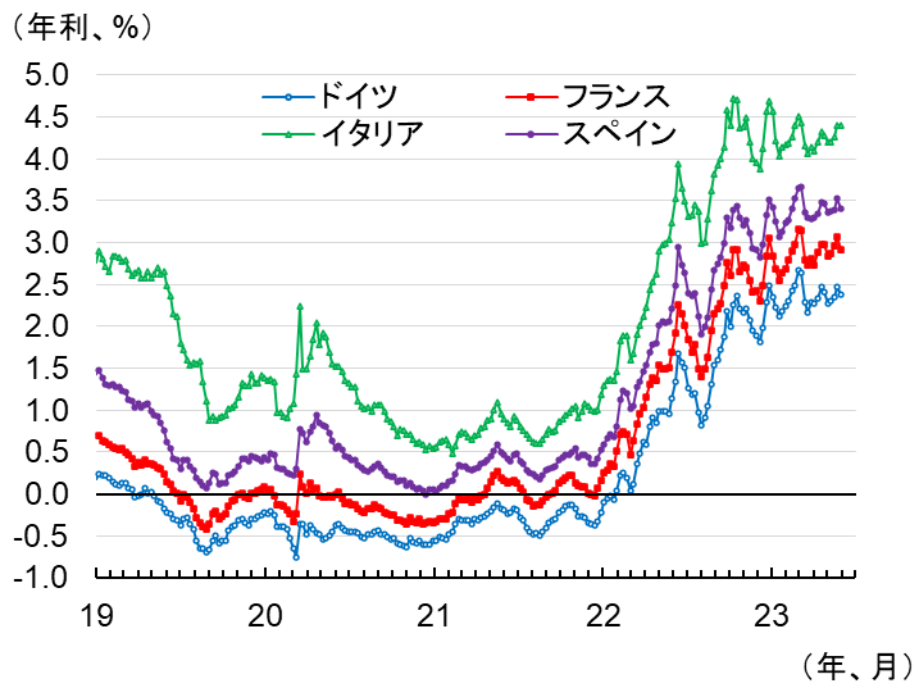
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> ■各政策金利を0.25%ずつ引き上げ <ul style="list-style-type: none"> ・貸出ファシリティー金利 3.75%→4.00% ・主要リファイナンス・オペ金利 3.50%→3.75% ・預金ファシリティー金利 3.00%→3.25%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> ■資産購入プログラム(APP) <ul style="list-style-type: none"> ・3月から6月まで月150億ユーロのピッチで保有資産を削減 ・6月で再投資を終了 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) <ul style="list-style-type: none"> ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> ■TPIの適用条件 <ul style="list-style-type: none"> ・EUが定める財政ルールへの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 <ul style="list-style-type: none"> ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は横ばい、株価は下落

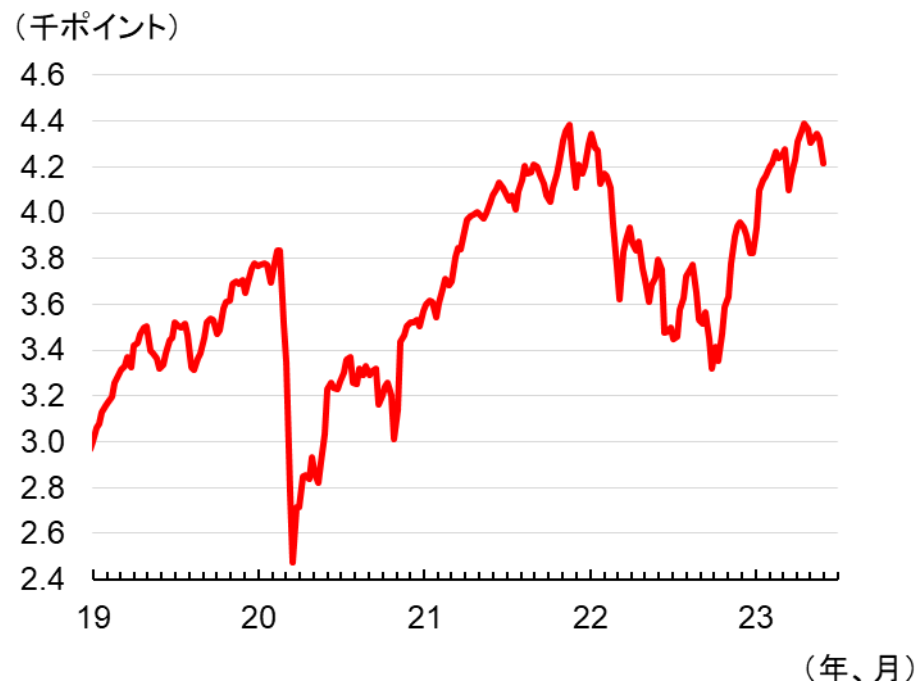
5月のユーロ圏主要国の長期金利は横ばいとなった。米国の追加利上げ観測が金利を押し上げた一方で、域内のインフレ鈍化が金利を押し下げた。他方で、5月のユーロ圏の株価は下落した。月前半は好決算が株価を押し上げたが、月後半は米国の債務上限問題や追加利上げ観測への懸念が株価を押し下げた。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)

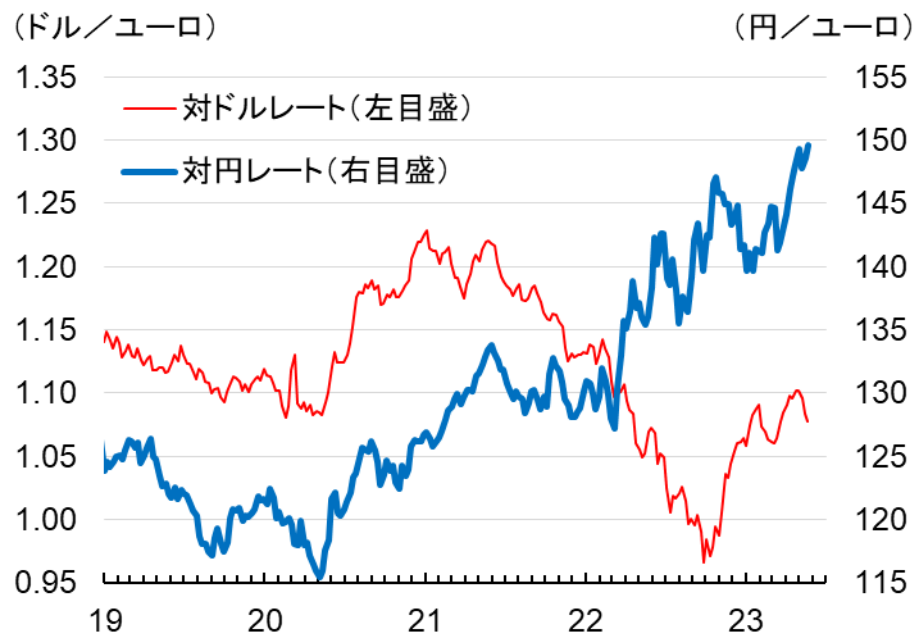


(出所) STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で横ばい

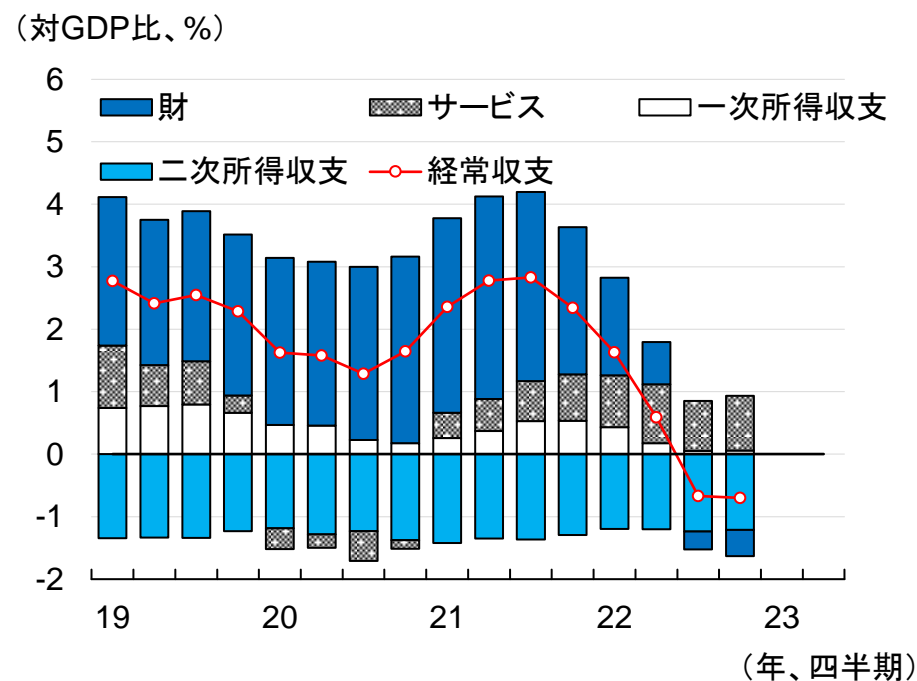
5月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で横ばい。対ドルでは、米経済の好調な内容と追加利上げ観測からユーロが売られて米ドルが買われた。対円では、月前半は欧州中銀（ECB）の利上げの停止が意識されてユーロが売られて円が買われたが、月後半は円が売られてユーロが買われた。

ユーロ相場



(注) 週次レート
(出所) ECB

国際収支



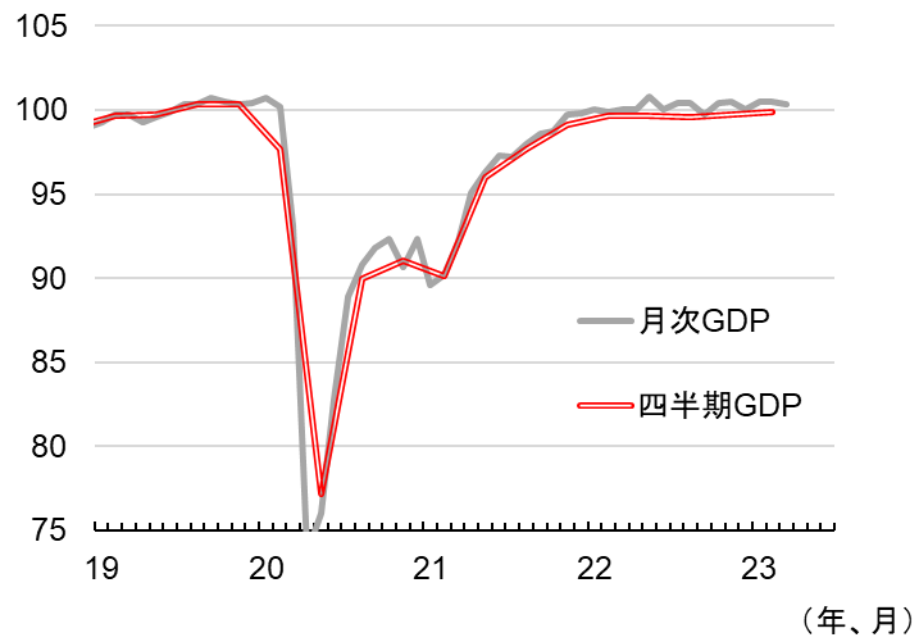
(出所) ECB

英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.1%と2四半期連続で同じ伸び率となった。主要な需要項目の動きを確認すると、設備消費が増加して景気を下支えした一方で、個人消費が横ばいとなり、輸出が減少して景気を下押しした。一方、3月の月次実質GDPは前月比▲0.2%となり、均した動きは足踏み。

実質GDP

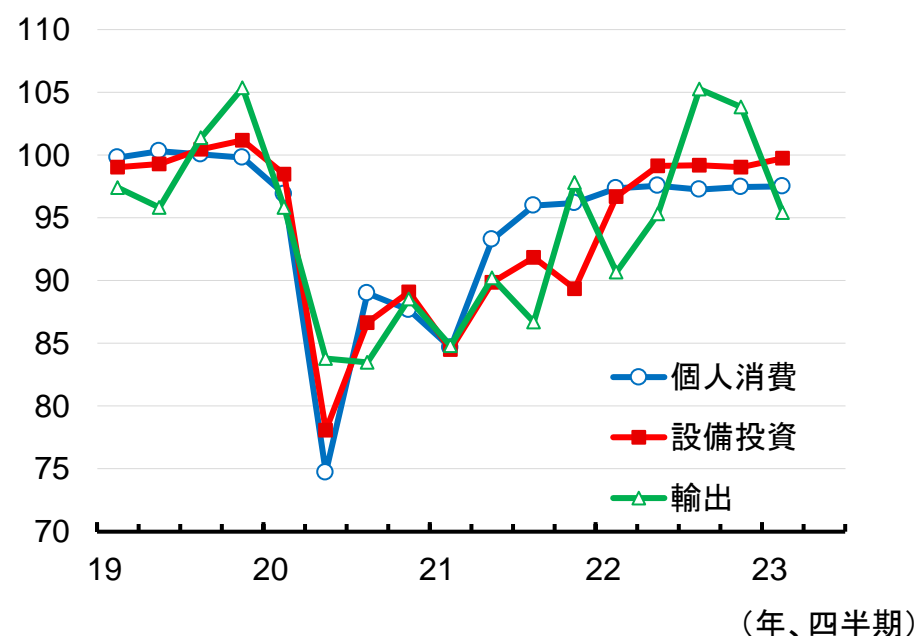
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2019年=100、季調済)

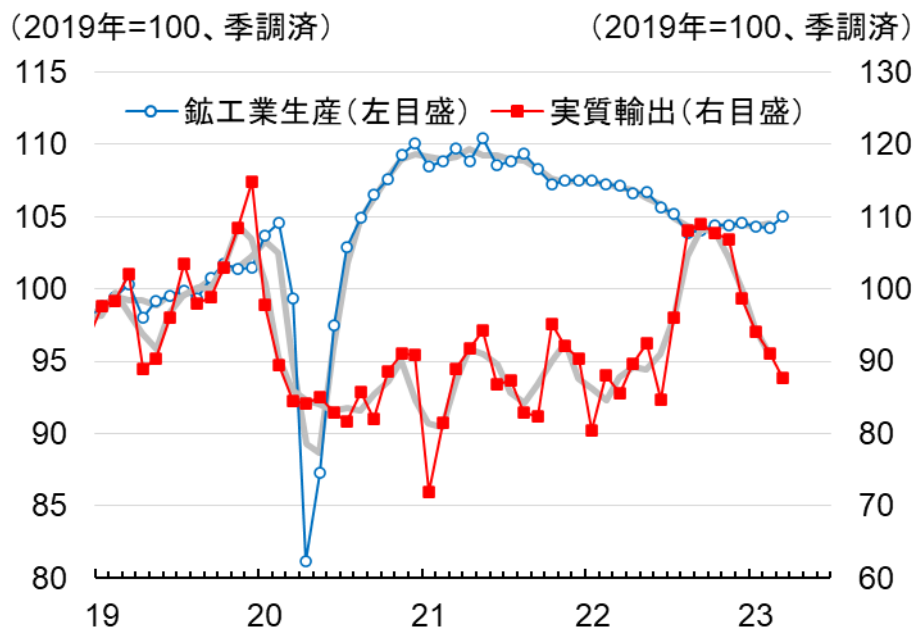


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は足踏み

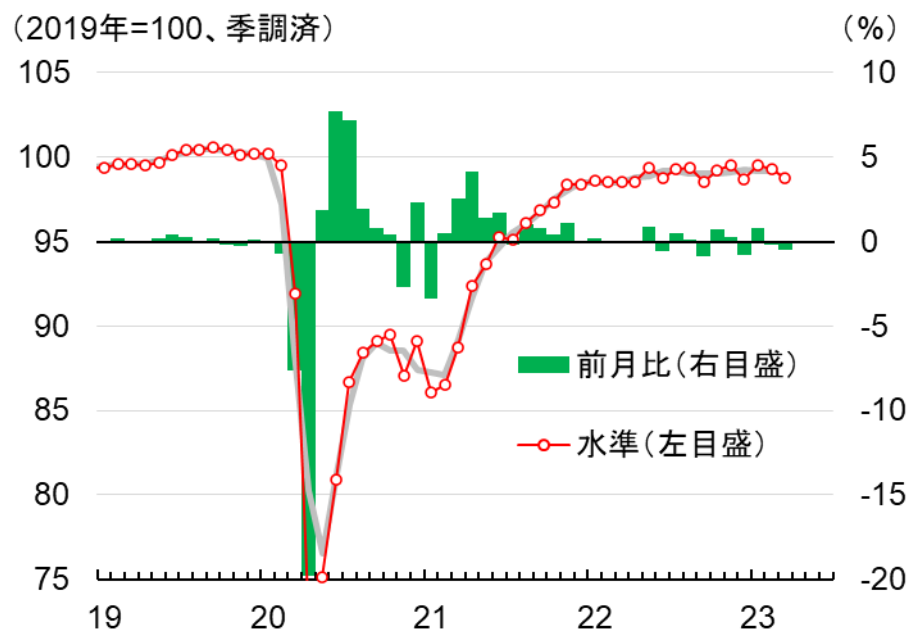
英国の3月の鉱工業生産は前月比+0.8%と3ヶ月ぶりに増加も、均した動きは横ばい。また同月の実質輸出は、非EU諸国向けを中心に製品や燃料が減少したことなどから、同▲3.7%と6ヶ月連続で減少。反面で、3月のサービス生産は前月比▲0.5%と2ヶ月連続で減少したが、均した動きは横ばい。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は横ばい

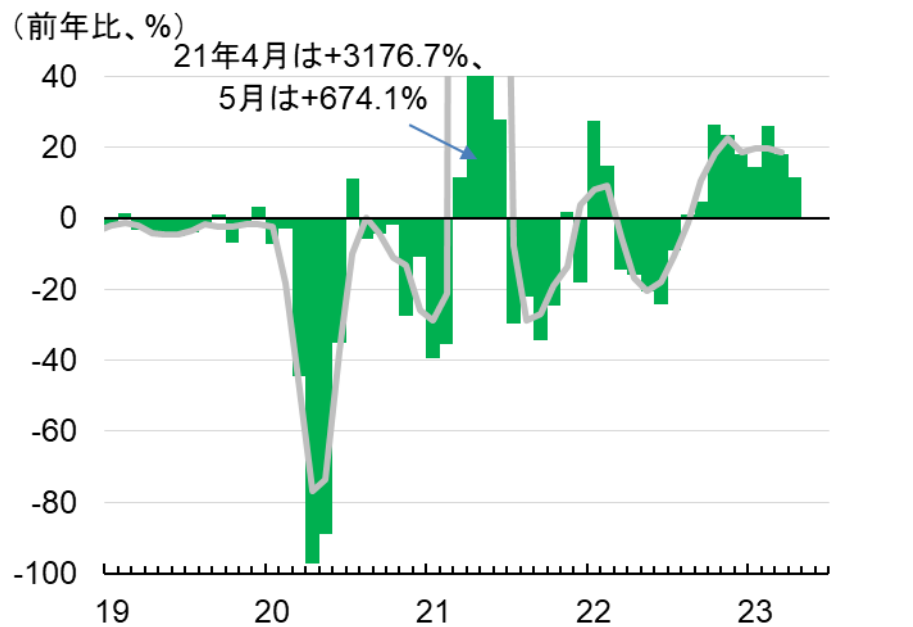
英国の4月の小売数量(除く石油)は前月比+0.8%と増加に転じたが、均した動きは横ばい。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+11.6%と2ヶ月連続で増勢が減速。均した動きは前年比2割増のピッチが定着し、市場規模は年間170万台レベルにまで回復。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

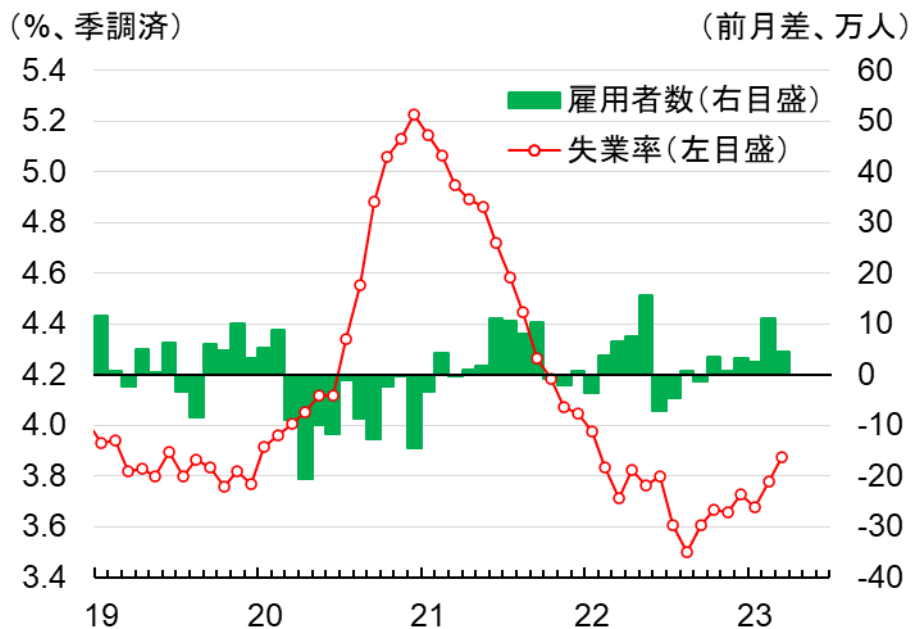


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善

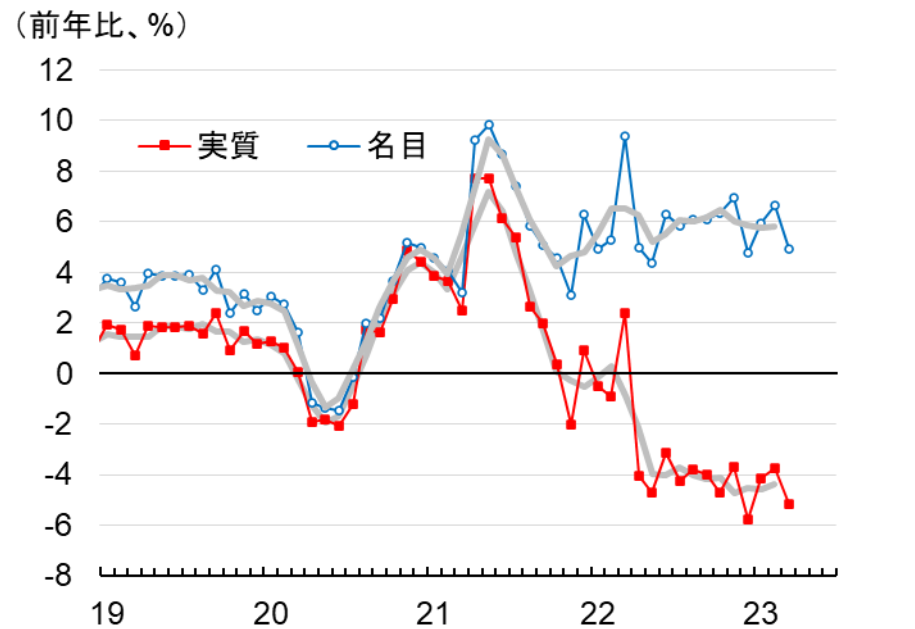
英国の3月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.9%と2ヶ月上昇も、雇用者数が前月比4.5万人増と緩やかな回復を続けていることから、雇用は改善と判断。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比6%前後のプラス幅が定着も、消費者物価で実質化した実質ベースでは減少幅が5%近くまで達した。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値 (出所)ONS

平均賃金(週給)

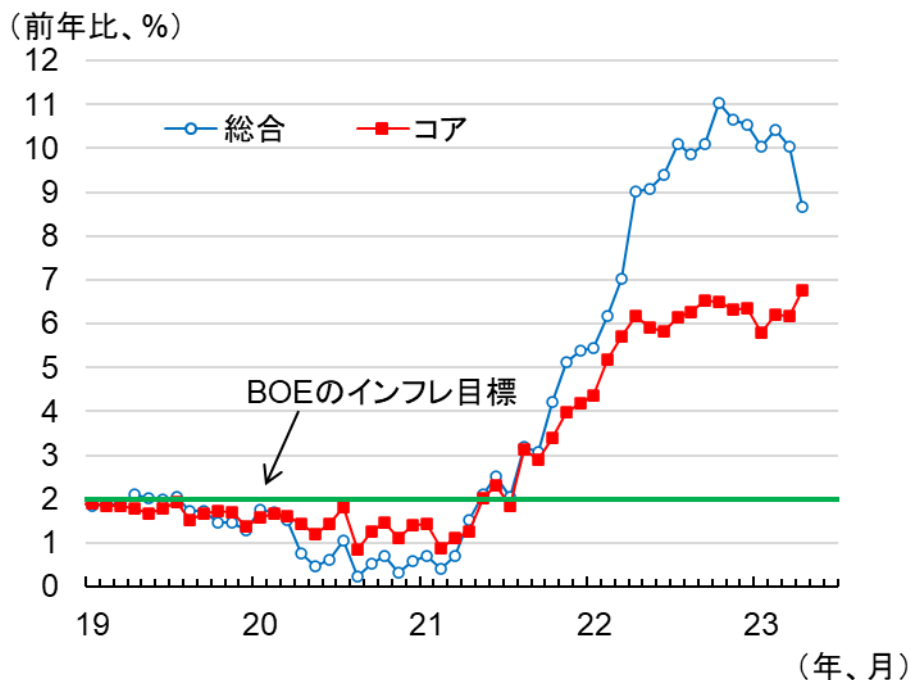


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (出所)ONS

英国景気概況⑤ ディスインフレが停滞

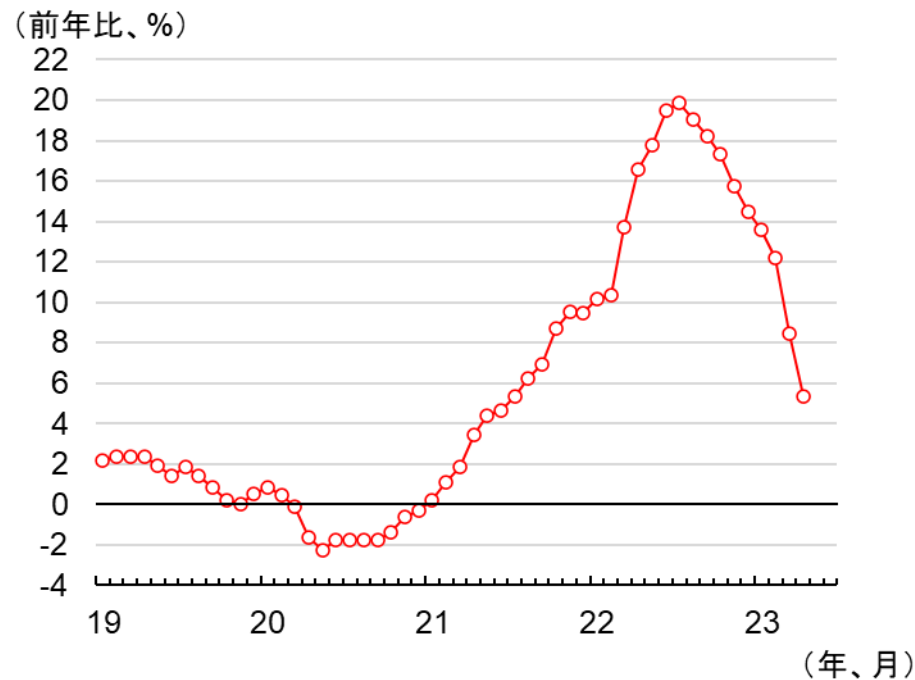
英国の4月の消費者物価は総合ベースで前年比+8.7%と2ヶ月連続で伸びが減速も、依然として上昇率は高い。また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+6.8%と、伸びが加速した。消費者物価の先行指標となる生産者物価は3月時点で同+5.3%と、9ヶ月連続で伸び率が低下した。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

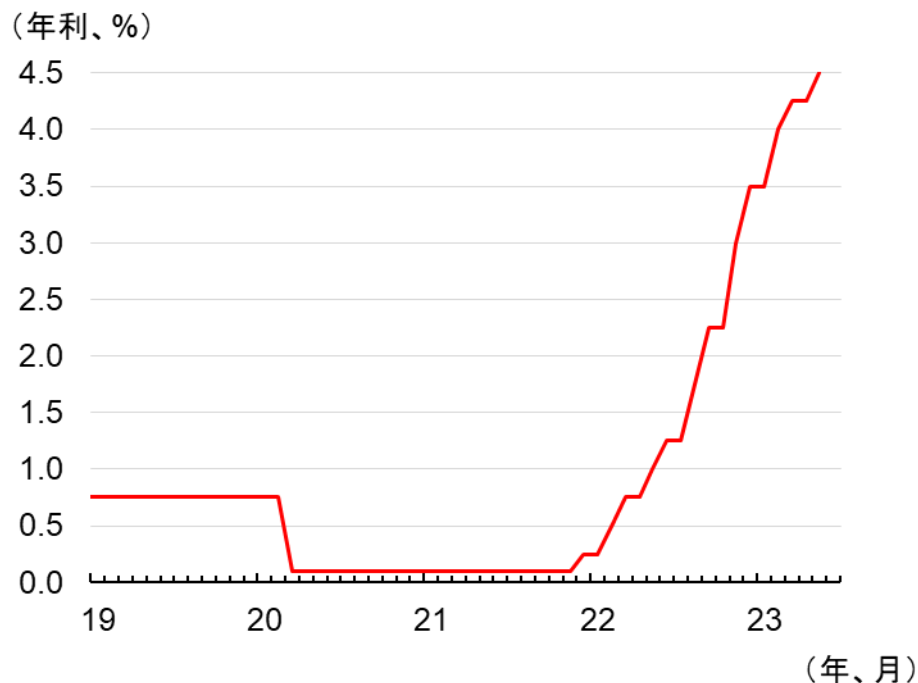


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは5月委員会で追加利上げを実施

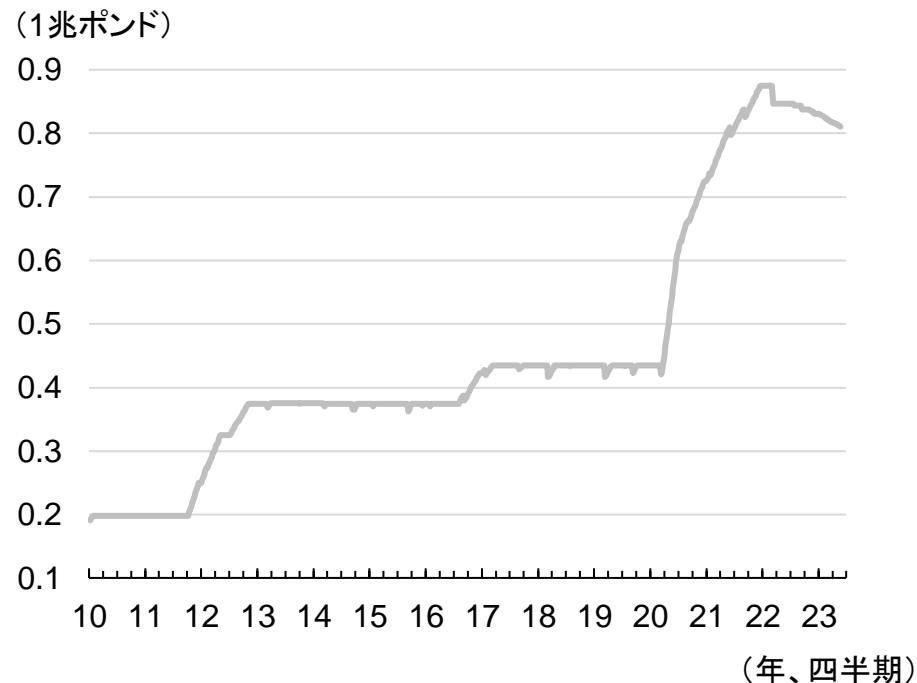
イングランド銀行(BOE)は5月11日に開催した金融政策委員会(MPC)で政策金利(バンクレート)を0.25%引き上げ、年4.5%とした。BOEは2022年11月から保有国債の市中売却を開始しており、国債の保有高は徐々に減少している。次回MPCは6月22日に開催予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

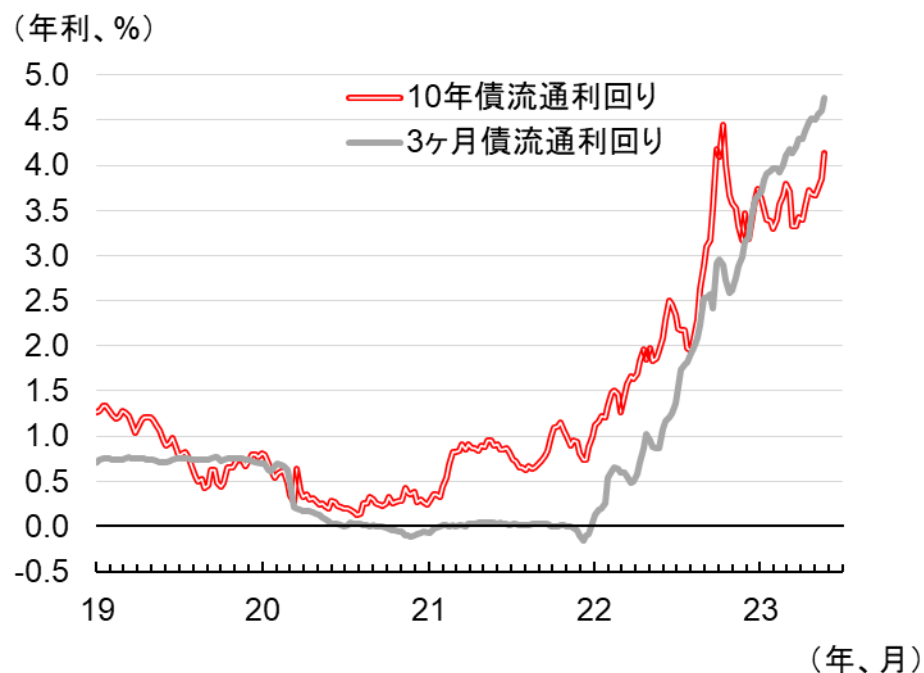


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

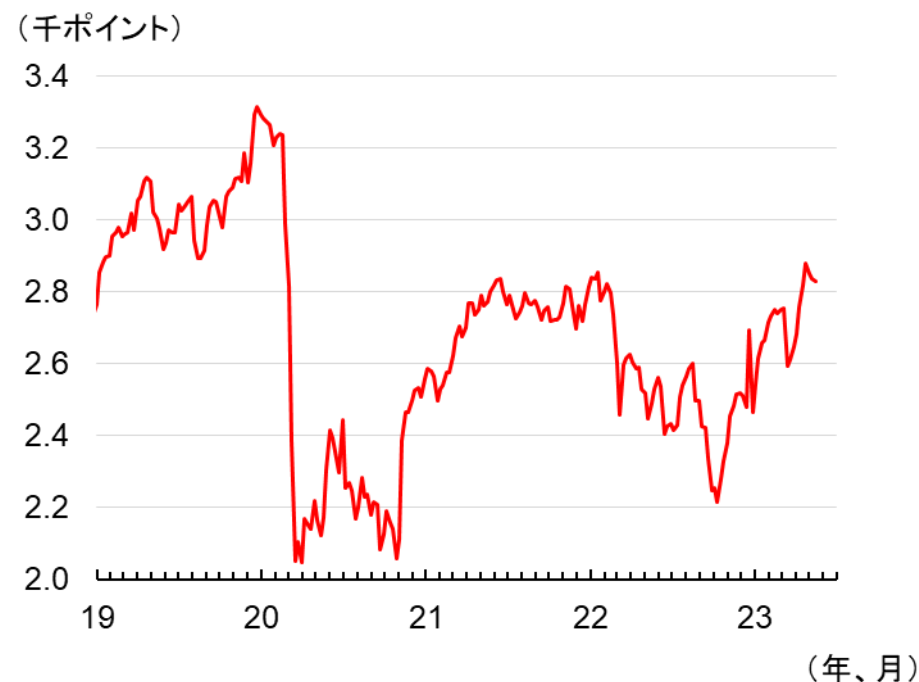
5月の英国の長期金利は上昇した。デイスインフレの停滞を受けて英中銀(BOE)の追加利上げが続くとの観測から、金利は上昇した。一方で、5月の英国の株価は下落した。軟調な中国景気を受けて鉱山株やエネルギー株が下落し、株価を押し下げた。

金利



(出所)BOE

株価(FT30指数)

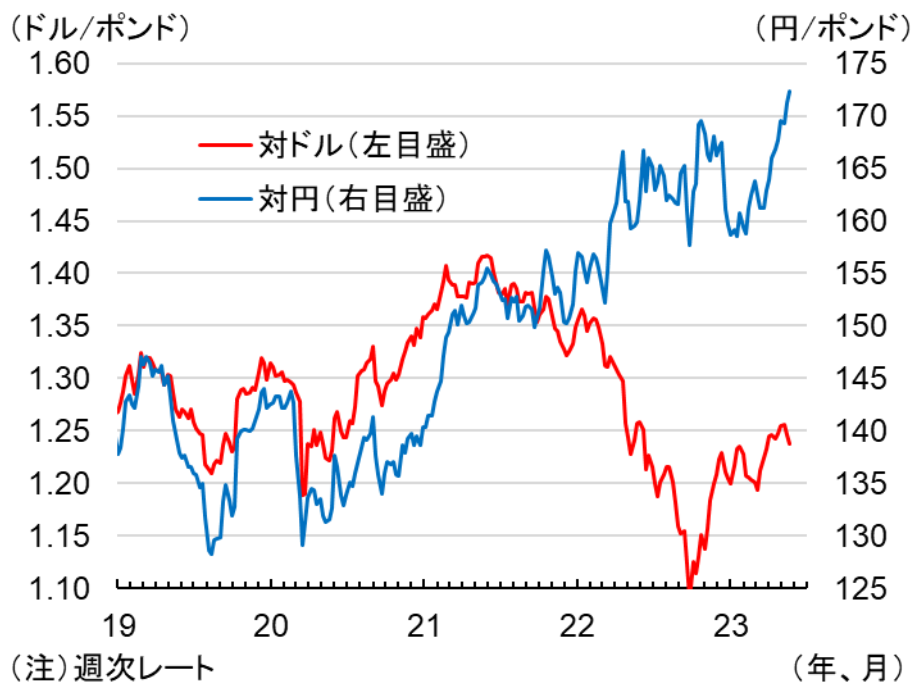


(出所)BOE

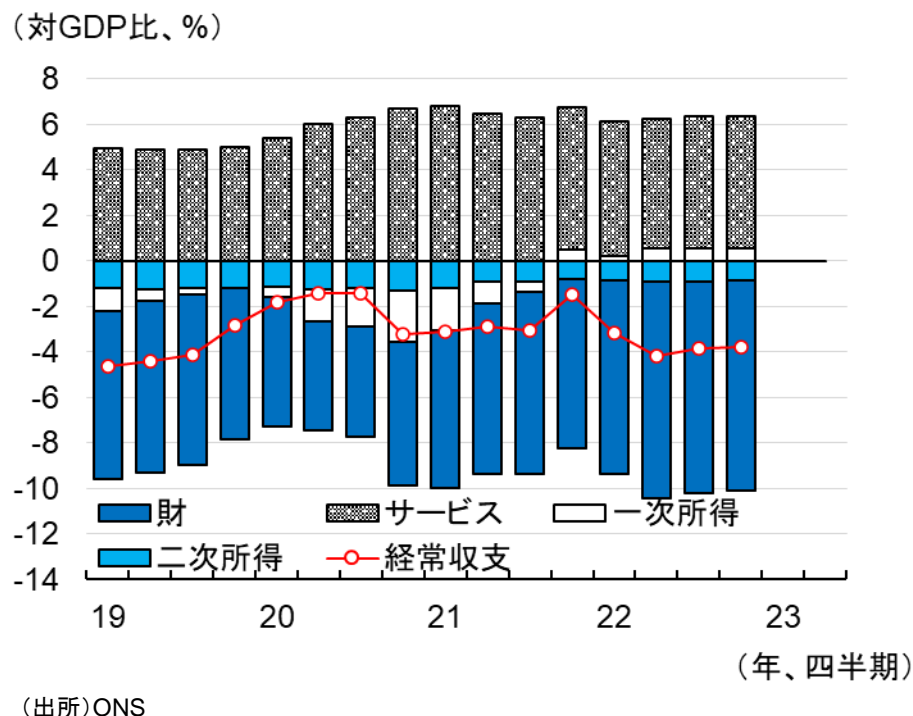
英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで下落、対円で上昇

5月のポンド相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米経済の好調な内容と追加利上げ観測からポンドが売られて米ドルが買われた。対円では、BOEによる追加利上げが続く一方で、日銀が金利を据え置くとの思惑から円が売られてポンドが買われた。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください